

令和4年度第1回金沢市地球温暖化対策推進協議会 議事要旨

■日 時 令和4年5月23日(月) 14:30~16:00

■場 所 金沢市役所第二本庁舎2階 2202会議室

■出席者 (順不同、敬称略)

会長	佐藤 清和	金沢大学教授
	瀬戸 和夫	金沢商工会議所環境問題 you 会委員長
	多田 幸生	金沢大学教授
	中山 晶一朗	金沢大学教授
	道脇 香里	金沢エコライフくらぶ
	宮井 利之	金沢エコ推進事業者ネットワーク代表運営委員
	宮下 智裕	金沢工業大学教授
	須崎 秀人	市民(公募)
	野吾 奈穂子	市民(公募)

※欠席 神 和成 一般社団法人石川県木造住宅協会副会長
新田 英治 北陸電力(株)石川支店総務部長
能木場由紀子 金沢市校下婦人会連絡協議会会長

事務局	加藤 弘行	環境局長
	山口 和俊	環境局環境政策課長
	中西 賢治	環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室長
	南 友貴	環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主査
	野村 勇介	環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主任主事
	三波 奈央	環境局環境政策課ゼロカーボンシティ推進室主事

■会議次第

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 令和4年度活動方針(案)について
- (2) 令和4年度事業(案)について
 - ・普及啓発事業
 - ・かなざわエコフェスタ2022
- (3) 金沢市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について
- (4) その他

3. 閉 会

1. 開会

(事務局)

それでは定刻となったので、ただいまより令和4年度第1回金沢市地球温暖化対策推進協議会を開催する。委員の皆様には大変お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。本日、神委員、新田委員及び能木場委員については所用により欠席されている。

はじめに、加藤環境局長よりご挨拶申し上げます。

(加藤局長)

本日は大変お忙しい中お集まりいただき、心から感謝を申し上げます。また、委員の皆様方には本市の環境行政に多大なるご理解とご協力を賜っており、この場をお借りしてお礼申し上げます。

昨年度は温対法の改正があり、2050年までのカーボンニュートラルが明記され、また、COP26においては石炭火力発電の段階的削減で合意されるなど、意欲的な方向性が示されてきた。今後ますます国を挙げて、全地球的に、分野を問わず、脱炭素への動きが加速していくと考えている。

しかしながら、ご承知の通り、ロシアによるウクライナ侵攻という思いもかけない事態が発生した。再生可能エネルギーの促進は、経済及び安全保障の担保との両立を図らなければならない、そのような状況になってきている。それぞれの国、立場によってエネルギー事情が異なる中で、どのように両立を図っていくのかはより重い課題であると捉えており、また、先行きに不透明感が漂っていると個人的には考えている。

このような変化の中で、温暖化対策の取り組みが止まるということではなく、本市においては今年度、2030年度における温室効果ガスの排出削減目標を引き上げるため、金沢市地球温暖化対策実行計画の改定を予定をしているほか、昨年度から庁内にゼロカーボンシティ推進本部を設置し、部局横断型で、温室効果ガスの削減に取り組んでいる。

一方、将来を担う子供たちの温暖化対策への意識や再生可能エネルギー等への興味関心も極めて大切なところである。それらを向上させるべく、今年度開催予定のエコフェスタや各種講座についても、内容充実を図っていく。

本日は、今年度の普及啓発事業等の事業計画について、ご報告をさせていただく。どうか皆様方の多様な観点から、忌憚のないご意見を賜るようお願いを申しあげて、簡単ではあるがご挨拶とさせていただきます。

会長挨拶（佐藤会長）

本日はお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。

本日の議題でもあるが、エコフェスタが、新しい企画なども盛り込まれ、2年ぶりに開催の運びとなっている。普及啓発事業等についても、新しい試みがある中で、忌憚のないご意見をいただきたい。

さて、この連休で、多くの観光客が戻ってきた。嬉しいような、気ぜわしいような気がしているところである。私の大学の様子を少しお話すると、我々や学生がPCR検査で陽性判定がでると「今日何人出ました。」といったようにメールが来るようになっている。比較的落ちついてきていると個人的に思っていたが、先週先々週はやはり、2、3人ぐらい、陽性反応が出ている。

まだまだコロナウイルスの状況は予断を許さないものとなっている一方で、我々の協議会が主催している各種事業についてコロナ前の活況を取り戻せるように、皆さんと協力して推進してい

きたいと考えている。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 議事

(1) 令和4年度活動方針（案）

(事務局) 資料1をもとに説明

(委員)

今年度の計画の進捗等点検は2月の全体会で行うのか。

(事務局)

そのとおりである。

(佐藤会長)

それでは、活動方針（案）について、ご承認いただくということによろしいか。

(委員承認)

(2) 令和4年度事業（案）

普及啓発事業及びかなざわエコフェスタ2022について

(事務局) 資料2、3をもとに説明

(委員)

かつての普及啓発はともかく人数を集めることに重きを置かれていた。ウィズコロナであることもあり、この考え方は捨てるを得ない。

新たな施策の効果の指標として、リーチ数で判断するのもひとつかと思う。

ここでいうリーチ数とは、来た人数ではなくそのうち何人に刺さったのかということを重視する考え方をいう。エコ森教室、市民体験講座は体験を伴うものであるため、来た人数=リーチ数ととらえて差支えはないと考えているが、オンライン講座の市民100名は、リーチ数をどう把握するかが焦点である。100人来たらいいではなく、アンケートを100枚集めましょう、といったようにアウトプットを伴う形とし、リーチ数を図る指標にしてはどうか。

他にも、SNS発信事業はいいね数ではなく、リツイート数、エコフェスタについても、来場者数6,000人ではなく、2,000人にいかに刺さるか、といったように事業の効果を測るべきではないか。

(事務局)

おっしゃるとおり、どのように評価していくかを検討し、その点を少し工夫した上で事業を実施していきたい。

(委員)

私も、刺さったかどうかを重視する考え方は非常に重要であると考えている。意識が変わり、行動が変わる事が大事で行動しないと社会が変わらない。SDGsの「行動の10年」においても非常に重要な考え方であると思う。

ところで、公民館ではSDGs学級を開催している。誰でも参加が可能で、環境に限らず色々なテーマを取り扱っている。そういった事業があるということなど、公民館と情報共有等はあるのか。

(事務局)

横の連携については、以前、通常環境出前講座の内容にSDGsのことも学びたいと言われた際、担当課と一緒に講座に出向き、SDGsについても話をさせていただいたことはあった。しかし、現状、横の連携を積極的にとっているわけではないので、今回の意見を参考にさせていただき、少し検討したいと思う。

(委員)

オンライン講座について、参加者は会場に集まり、講師がオンラインという認識でよいか。オンラインで講座に参加はできるのか

(事務局)

その認識でよい。参加者は会場に来てもらう必要がある。

(委員)

著名な講師を起用しているが、どのようにこの講座をPRしているのか。

(事務局)

多くの方の目に触れるように新聞広報を出しており、図書館にチラシを配布している。今後は大学や公民館等にチラシをまこうかと考えている。

(委員)

来ていただかないことには始まらないので広報の方法は非常に重要である。

また、ツイッターについて、SNSをほとんどやらない一般の方はどのようにアクセスできるか。想定されるアクセスのルートはどのようなものか。

(事務局)

金沢市のHPにQRコードやリンクを掲載しているので、そこからご覧いただくか、ネットで「ゼロカーボンシティかなざわ」と検索を掛けていただくルートが考えられる。

(委員)

そのルートへの誘導をしないと環境に興味がない方にはなかなか見てもらえないのではないかと。他のイベントのチラシにQRコードをつけるなど、そういったことも裾野を広げる方法としては有効であると思う。

(事務局)

効果的な広報方法については検討させていただきたいと思う。なお、ゼロカーボンシティかなざわ発信事業は最終的に、協賛企業や団体ツイート中のハッシュタグを介してゼロカーボンシティかなざわのツイートに誘導する仕組みを想定しており、そういった仕組みで以て裾野を広げていきたいとも考えている。

(委員)

「金沢市」で検索すると出てくると思っていた。こういった方もいると思うので、チラシ等へ掲載するときは「【ゼロカーボンシティかなざわ】で検索！」など一工夫するとよいのではないか。

(委員)

チラシ等への掲載については私も同意見である。

(委員)

オンライン講演会は YouTube 等で配信するのか。

(事務局)

後日 YouTube で配信予定である。

(委員)

エコフェスタは企業・団体がブースをだすようなイベント形式なのか、また、第2本庁舎のどこで実施するのか。

(事務局)

今年はどのような形式で実施するのか検討中であるが、例年であれば、企業団体ブースや、飲食ブース、美大生によるダンボールエコアート展などを内容とするイベントである。第二本庁舎での実施は今回が初であるが、ロビーや、前庭部分を使用してできるのではないかと考えている。

(委員)

同じような時期に開催するSDGsフェスタとの差別化は何か考えているか。

(事務局)

SDGsフェスタは前日開催と聞いている。具体的な連携内容まで詰められていない。SDGsと温暖化対策とで目指すゴールが同じであるため、少し似たような内容になる部分も出てくるかとは思いますが、どう差別化できるか検討していきたい。

(委員)

10月9日(日)はおそらく周辺で他のイベントも多数開催される。それらのイベントと相互作用を起せば来場者数も伸びると考えられるが、どんなイベントがあるか把握はしているのか。

(事務局)

当日の庁舎前広場やしいのき迎賓館で開催されるイベントについては把握している。エコフェスタのイベント内容についてもそういったイベントと相互作用を引き起こせるように考えていきたい。また、感染症対策についても周辺イベントと連携して、来場者が何度も検温等をしないで済むように連携して取り組んでいきたい。

(委員)

カーフリーデー等の親和性の高いものを同時に開催して、啓発効果を高める考え方もあれば、ばらばらに開催して学習機会の回数を増やすと2つの考え方があるが、事務局はどのように考えているか。

また、エコフェスタの内容として、どのような啓発内容が温室効果ガス削減に効果的だと考えているか、現段階で構想があれば教えてほしい。

(事務局)

開催方法については、どちらの考え方もあり、所管が違うということも内部的にはあるが、いずれかの考え方に基づいてイベントを実施している。温室効果ガス削減をいかに効果的に啓発するかについては、検討した上で、イベント内容に反映させたい。

(委員)

エコフェスタについて、雨の日はどうするのか。前回まではステージイベントの音量がすごかったため、長く滞在することは難しいように思えた。その点についてもしっかりと検討してほしい。また、この第二本庁舎の特徴を生かして開催してほしい。

(事務局)

雨の日やステージイベントの音量についてもしっかりと検討していきたい。二階の会議室等も使用可能であるので、スタンプラリーのような形にするのも面白いかもしれない。

(委員)

スタンプラリーの一種として、QRコードでゼロカーボンシティかなざわSNSにアクセスし、フォローしたらスタンプが押される、といった試みも面白いと思う。

(佐藤会長)

それでは、令和4年度事業(案)について、ご承認いただくということによろしいか。

(委員承認)

(3) 金沢市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について

(事務局) 資料4をもとに説明

(委員)

パブリックコメントとは何か

(事務局)

市の基本的な計画等を策定する際に実施される市民からの意見公募手続きを指す。

(委員)

6月の意見聴取と、12月のパブリックコメントの違いは何か。

(事務局)

6月の意見聴取については、web上でアンケートを採るeモニター制度を用い、計画が固まっていない段階で行うものであり、12月についてはパブリックコメント制度を利用し、ある程度計画がかたまった段階で実施するものである。広く市民の皆様の意見を聴取するために異なった方法で2回実施しようと考えている。

(委員)

パブリックコメントのように、昨今カタカナの横文字が氾濫しているため説明資料等には、そのカタカナ言葉が何を指すのかを記載した方がわかりやすいと思う。

(事務局)

今回の様な資料や対市民向けの広報物でわかりやすい表記を心がけていきたい。

(委員)

eモニターや事業者への意見聴取はどれくらいの規模で行うのか。

(事務局)

eモニターについては市民200名、事業者への意見聴取は金沢エコ推進事業者ネットワークの会員を対象とする予定で、100社を想定している。

(委員)

eモニターアンケートの対象者は、みな環境への意識が高いことが想定されるか。

(事務局)

eモニターアンケートは、温暖化施策を含む市の施策全般についてアンケートをお願いするものであり、対象者は必ずしも環境に興味のある市民のみではないと考えている。

(委員)

削減水準を現行の30%から46%に引き上げるとのことだが、施策をどう積み上げていくかが大きな争点となる。

(事務局)

まずは国の追加の削減施策による金沢市への寄与分をしっかりと把握した上で、本市の施策をどれだけ積み上げるか検討したいと思う。

(委員)

計画の見直しは5年か。

(事務局)

その通り。

(委員)

削減目標 46%への施策積み上げを行う際、一つの分野（再エネによる削減、省エネによる削減など）に対して積み上げ方法が少ない場合、その積み上げ方法に関する根幹部分が社会情勢的に到底計画の目標値に及ばない場合、その分野が全く進まないことになる。（例えば、再エネによる削減分を太陽光発電設備の爆発的な普及で担保する積算の場合、太陽光発電設備普及の伸びしろが無くなってしまうと当該分野における削減が頭打ちになってしまう。）各分野ごとの目標達成につき、第2、第3の矢を想定しておくことも非常に重要である。また、計画策定当時には想定していない技術が一気に進歩する事も考えられる。そうした技術の適用による削減量を、後から加味出来るような制度設計にしておく事が出来れば、より柔軟に目標達成に進んでいけると思う。

(事務局)

そのような制度設計の可否も含めて、皆様のご意見を伺いながら検討させて頂きたい。

(委員)

2030年度に46%削減ということで、かなり大変な目標だと思うが、達成への道筋の参考となるようなモデルケースは政府から提示されているのか。

(事務局)

国の46%に適合した温暖化計画や、地域脱炭素ロードマップ等が提示されている。それらも参考に検討を進めていきたいと考えている。

(委員)

やはり太陽光発電設備の導入促進を主軸に削減量を積み上げていくのか

(事務局)

太陽光はもちろんであるが、例えば金沢市は水資源が豊富であることから水力発電による積み上げなどの手段も考えられる。また、ハード面の整備だけでなく、省エネ行動への変容促進などのソフト的なものも非常に重要であると考えている。

(委員)

ウクライナ侵攻により、再エネを取り巻く世界的な潮流が、促進とは逆の方向に進む雰囲気も感じる。削減量の積み上げには、そういった社会の情勢に左右される部分もあるため、46%水準というのは非常に難しいと思うが、しっかり検討できればと思う。

(委員)

総削減量のうち、どれくらいの割合をソフト面、どれくらいの割合をハード面の整備により減らすといった各分野における削減割合を計画の中で可視化する、さらにはそれを市民に対して見せていくといったことも有効である。それにより各種施策の実施優先度等を判定することが出来ると考える。

(事務局)

可視化については、可能な限りでやっていきたい。

(委員)

事業者向けに金沢市が将来のビジョンについて各事業者と共有を行っていくことも必要である。事業者を巻き込まないと脱炭素化の目標達成は出来ない。

(事務局)

おっしゃるとおり事業者に対して、ビジョンを共有することは大切である。計画改定後になるかもしれないが、そういった機会創出を検討していきたい。

(委員)

SDGsのミライシナリオがあるかと思うが、どのようにミライシナリオの成果指標と連動して計画をつくっているのか。また、石川県の石川CN（カーボンニュートラル）会議を組織するとの報道を目にしたが、その進捗状況などもわかれば教えて欲しい。

(事務局)

かなざわSDGs行動計画に対し、現実行計画は分野計画という位置づけになる。石川CN会議については情報がたばかりで詳細把握は出来ていないが、情報を収集した上で、協力していきたいと考えている。

(委員)

計画を改定する際には、廃棄物抑制と省エネ推進を両立する観点を大切にしてほしい。

(委員)

事業者への施策に関連して、脱炭素経営ガイドブックが環境省から発行されている。そこに20社程度のモデルケースが掲載されている。そういった物を事業者向けに教材として提供するものも有効である。一般市民向け啓発事業と両輪で継続的に実施してもよいのではないか。

(委員)

設置から2～30年経過した太陽光発電設備の廃棄問題が報道されているが、金沢市としての意見を伺いたい。

(事務局)

現在、市としてオーソライズされた考え方はないが、そういったことも計画の中で検討出来ればと思う。

(佐藤会長)

それでは、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）改定について、ご承認いただくということでもよろしいか。

(委員承認)

(佐藤会長)

では、以上をもって会議の進行を事務局にお返しする。

4. 閉会

(事務局)

委員の皆様には長時間にわたり熱心にご議論いただき、誠に感謝申し上げます。
以上をもち、令和4年度第1回金沢市地球温暖化対策推進協議会を閉会する。